

農作物技術情報 第6号 水稻

発行日 令和7年8月28日	<small>携帯電話用 二次元コード</small>
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部	
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）	
「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます パソコン、携帯電話から「 https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/ 」	

気温が高く推移しており、平年と比べて刈取り適期は大幅に早まると予想されます。刈遅れは胴割粒の発生等による品質低下や食味低下につながるため、適期刈取りを心掛け、高品質米生産を目指しましょう。

- 黄化粳80～90%に達したらテスト粳摺りを行い、刈取りの可否を判断しましょう。
- コンバインや乾燥調製施設の点検、整備は早めに行いましょう。
- 粳の乾燥は二段乾燥を心がけ、玄米水分15%以下に仕上げましょう。
- 異品種混入（コンタミ）対策を徹底しましょう。

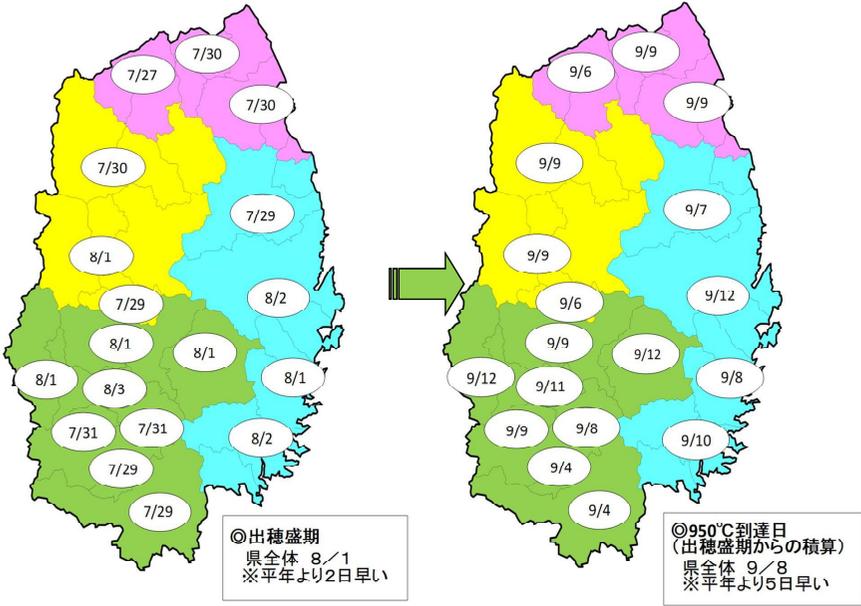


図1 各地域の出穂盛期から予測した刈始めの目安日（積算気温950°C到達日）
 1) 左側：各地域の出穂盛期（月/日）、右側：刈始めの目安（月/日）
 2) 刈始めの目安は、各地域の最寄りのアメダス地点について、日平均気温を積算して950°Cに達する日。
 （8月20日までは各地域の代表アメダスの現況値、8月21日以降は平年値を使用）

1 今後の気象の見通し
 東北地方の1ヶ月予報（仙台管区气象台8月21日発表）では、平均気温は高い確率70%と予想されており、期間の前半（8月23日～9月5日）は気温がかなり高くなる見込みです。

- 2 早期落水の防止
- 完全落水は排水不良田で出穂後30～35日、排水のよい水田で出穂後35～40日頃を目安とします。本年は高温で登熟が早まっていますので、刈取り時期を見据えて落水時期を判断しましょう。
 ⇒ 極端な早期落水は腹白粒増加や干粒重低下、胴割粒発生の原因となるので注意
 - 少雨・渇水の影響や、直播栽培などにより出穂が遅い圃場などにおいて、登熟の早い段階で用水が利用できなくなる場合は、排水口を閉じるなどして、乾かし過ぎない管理とします。
- 3 適期刈取りの遵守
- (1) 刈取り適期の予測
- 刈始めの目安となる出穂後の日平均気温の積算気温950°C到達日は平年よりも大幅に早まる見込みです（表2、図1）。収穫適期を過ぎると胴割粒の発生等の品質低下や食味低下につながるため、刈遅れないよう十分に注意してください。
 - 登熟の進み具合は気温・日照時間だけでなく、栽培管理も影響します。積算気温の予測のみに頼らず、実際の粳の黄化をよく観察した上で刈取りの可否を判断することが大切です。
 - 共同乾燥調製施設を利用する場合は、施設の稼働時期を確認し、作業計画を立てます。

表1 おもな品種の積算気温による刈取り適期の目安

品種名	刈取り適期の積算気温（°C）
ひとめぼれ	900～1,050
金色の風、銀河のしずく、いわてっこ、白銀のひかり	950～1,050
あきたこまち	950～1,100
ヒメノモチ、もち美人	950～1,050

表2 各地域の出穂期と積算気温950°C到達日（刈始めの目安日）の予測

地帯	出穂期（月/日）		登熟積算気温950°C到達日予測															
			予測①（平年±0°C）			予測②（平年+2°C）												
	本年	平年差（日）	950°C到達日（月/日）	平年差（日）	950°C到達日（月/日）	平年差（日）	950°C到達日（月/日）	平年差（日）										
	始	盛	終	始	盛	終	始	盛	終	始	盛	終						
北上川上流	7/28	7/31	8/3	-3	-4	-5	9/5	9/9	9/13	-4	-5	-6	9/3	9/7	9/11	-6	-7	-8
北上川下流	7/27	8/1	8/4	-4	-2	-3	9/2	9/8	9/13	-6	-4	-4	9/1	9/6	9/10	-7	-6	-7
東部	7/27	8/1	8/7	-4	-3	-2	9/4	9/10	9/17	-5	-4	-3	9/3	9/8	9/15	-6	-6	-5
北部	7/26	7/28	7/31	-6	-7	-9	9/5	9/7	9/11	-8	-10	-11	9/3	9/5	9/9	-10	-12	-13
県全体	7/27	8/1	8/4	-4	-2	-4	9/3	9/8	9/13	-6	-5	-5	9/2	9/6	9/10	-7	-7	-8

1) 出穂時期…始期：10%、盛期：50%、終期：90%の水田で出穂した日。
 2) 積算気温950°C到達日予測…日平均気温が各地域のアメダス平年値並（±0°C）、2°C高い（+2°C）場合の950°C到達日。
 （8月20日までは各地域の最寄りアメダス現況値、8月21日以降はアメダス平年値）。

(2) 刈取り適期の判断

積算気温による予測は、栽培条件や日照の多少によってずれる場合があるため、最終的な刈取りの判断は次の手順により、実際の登熟状態を確認しておこないます。特に本年は、高温により刈取り適期が早まる見込みのため、刈遅れには十分注意しながら、圃場毎の登熟状況をよく観察したうえで判断します。

ア 黄化籾割合のチェック

平均的な大きさの穂を観察し、黄化した籾が1穂数に占める割合を確認します。刈取り適期は「黄化籾割合80~90%」(参考：図3)です。



図3 黄化籾割合 90%の穂の状態

イ テスト籾すりによるチェック

黄化籾割合が80~90%に達したら、数穂を採取しテスト籾すりします(図4)。

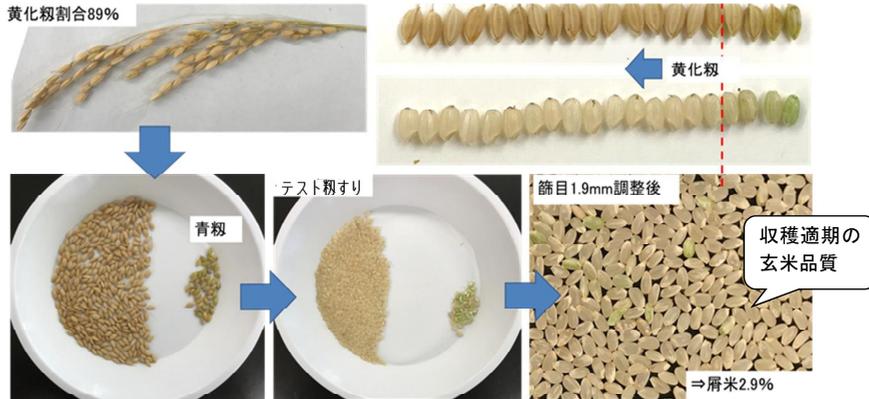


図4 黄化籾割合 80~90%時のテスト籾すり後の玄米の状態

(3) 収穫作業の留意点

- ・ コンバイン収穫では、作業開始前に籾水分が20~25%の範囲であることを確認します。
- ・ 収穫後は生籾のまま放置せず、速やかに乾燥調製施設へ搬入します。
- ・ 水口付近などで登熟が大幅に遅れている部分や、倒伏した部分は可能な限り刈分けを行い、青未熟粒等の混入を避けず。
- ・ 倒伏により穂に土砂などが付着した場合、収穫・調製機械に負荷がかかるだけでなく、玄米の汚損につながる恐れがあるので、作業機の清掃を念入りに行います。

4 乾燥・調製の留意点

玄米品質を確保するため、仕上げ水分15.0%以下を徹底し、丁寧な乾燥・調製を心掛けましょう。

(1) 胴割粒の発生防止

- ・ 火力乾燥においては、1時間あたりの水分減少率(毎時乾減率)を0.8%以下とします。
⇒ 乾燥速度を上げすぎると胴割粒が発生するため、急激な乾燥・過乾燥に注意します。
- ・ 4%以上の水分差がある籾を一緒に張り込むことは避けず。
⇒ 籾水分18%の時に一旦乾燥機を止めて放冷・循環常温通風し、その後仕上げ乾燥して籾水分の均質化を図ります(二段乾燥)。
- ・ 自然乾燥(ハセ・棒がけ)は2週間以内を目安とし、時々掛け替えして乾燥を促します。

(2) 籾すり時の肌ずれ、脱ぶの防止

- ・ 肌ずれを防止するため、玄米水分15.0%以下の適正水分で籾すりを行います。
- ・ ゴムロールのすき間は、籾の厚さの約1/2(0.5~1.2mm)が標準です。
- ・ 脱ぶ率は条件により変化するので、85%程度になるようロール間隔を調整します。

(3) ライスグレーダー

出荷製品用は、LL(1.9mm)の篩目目使用を基本とし、整粒歩合80%以上を目指します。

5 異品種混入の防止

- ・ 産地から出荷する米穀は「表示銘柄以外の混入のない米」であることが必須です。
- ・ 異品種混入(コンタミ)が発生すると、品種名の表示ができなくなることに加え、産地全体のイメージダウンとなります。
- ・ コンバイン、運搬機、乾燥機や籾摺機など収穫・乾燥・調製機械や施設内には、前年の籾等が残留している可能性があるため、これらの機械や施設の点検・清掃を十分に行います。

6 農作業安全

収穫時期は日没が早まり、例年農作業事故の発生が多くなります。余裕をもった作業計画をたてるとともに、作業機に反射シールを貼る等、交通事故防止対策を講じます。

熱中症防止	<p>次号は9月25日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。 ■ 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。 ■ 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。
	<p>農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。</p>

農作物技術情報 第6号 畑作物

発行日 令和7年8月28日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 大豆 圃場が乾燥する場合はかん水しましょう。また、紫斑病とマメシクイガの防除時期を迎えていますので、収量・品質確保のため、必ず薬剤散布を実施しましょう。
- ◆ 小麦 麦類の連作やトウモロコシを前作とすることを避け、前作がイネの場合は切り株及び稲わらを適切に鋤込みましょう。また、排水対策・土づくり・適期播種に努め、赤かび病の一次伝染源となるイネ科雑草について、作物生育期間を通して圃場及び畦畔の除草を行いましょう。

大豆

1 生育概況

圃場の乾燥により、葉が立ち、葉の裏面が見える症状が県内各地で見られましたが、降雨により回復傾向にあります。また、子実肥大期となっており、紫斑病とマメシクイガの防除時期を迎えています。

2 今後の圃場管理

(1) 高温・少雨対策

圃場の乾燥は、子実肥大前期では落莢と不稔莢を増加させ、子実肥大後期では葉の老化により子実肥大期間を短縮させ百粒重が減少します。

ア 暗渠の閉栓

高温・少雨が予想される場合は、圃場の土壌水分を適正に維持することを目的に、暗渠を閉栓し、土壌水分の保持に努めてください。

イ かん水（農業用水が確保できる場合）

下記URLに掲載している「大豆の開花期以降のかん水要否判定シート」を参考に、明渠やうね間を利用したかん水の実施について検討してください。

大豆の開花期以降のかん水要否判定シート

<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/technical/2011449/2011924.html>

※地域によっては、農業用水の供給制限が行われているところがありますので、各地域の情報を確認してください。

(ア) かん水実施の目安

- ・ 日中に上位葉が立ち、半分以上の葉で裏面が見えるようになった時期（写真1）。
- ・ 晴天が1週間程度続き、土が白く乾燥した時期。



写真1 乾燥が続き、葉が立った様子（圃場全体が白っぽく見えている）

(イ) かん水を実施出来る条件

- ・ 水回りが良いこと。（うね立て播種や中耕・培土等でうね間があること。圃場の隅などに水が溜まらないこと）
- ・ 漏水が小さいこと。
- ・ 排水溝をあらかじめ設置していること。

(ウ) 具体的な方法

事前に、明渠はしっかりつなぎ、水尻を掘り下げる。

- ・ 暗渠を閉める。
- ・ 水口の株が冠水しない程度の水量でかん水。
- ・ **水尻まで水が届いたら止水し、暗渠を開け、過剰な水を排水する。（水が停滞すると土壌中の酸素濃度が低下して、湿害を生じることがあるため、水が行きわたったら速やかに排水する。）**

(2) 排水対策

集中豪雨による冠水・浸水被害や湿害を避けるため、畦溝と排水溝を連結するとともに、明渠や水尻にゴミなどの詰まりや崩れがないか確認します。また、排水口（フリードレン下部）の高さを確認し、圃場内排水を促すようしっかり掘り下げてください。

3 病害虫防除

マメシクイガの防除適期は、県北部で8月第6半旬、県央・県南部で9月第1半旬となっています。また、紫斑病の防除適期は、若莢期（開花後20日頃）～子実肥大期（開花後40日頃）です。薬剤は、莢によく付くように散布（液剤の場合、生育が旺盛な場合は登録の範囲内で散布薬液量を増やす）します。

また、吸蜜性カメムシ類（写真3）の発生が見られる圃場では、有機リン剤や合成ピレスロイド剤等による防除を実施します。マメシクイガと同時防除を行う場合には、有機リン剤を選択します。



写真2 マメシクイガの成虫



写真3 ホソヘリカメムシ

4 手取り除草の実施

雑草は収穫時に汚損粒の原因となりますので、早めに除草します。

シロザやアメリカセンダングサなどの大型雑草のほか、近年拡大傾向にある帰化アサガオ類やアレチウリなど、防除が難しい雑草が発生している圃場では、雑草が種子をつける前に除草を行ってください。

5 台風対策

台風の影響を受けやすい時期になります。土壌表面の排水を促進するため周囲溝や排水口等を点検・補修し、土壌表面水を速やかに排水する等、必要な対策を講じてください。

小麦

1 圃場の選択

赤かび病は、特にイネ科作物（麦類、トウモロコシ、イネ）、イネ科雑草に感染しやすく、作物残さや雑草は一次伝染源となるため、麦類の連作やトウモロコシを前作とすることを避け、適切な輪作体系とします。前作がイネの場合は、切り株及び稲わらの確実な鋤込みを行います。

2 排水対策

赤かび病に強い健全な麦を生産するため、排水対策を適切に実施してください。

水稲の収穫後、小麦を作付けする圃場については、必要に応じてサブソイラによる弾丸暗渠の施工を行うとともに、地表水の速やかな排水を促すため、できるだけ早く額縁明渠を設置します（写真4）。

額縁明渠は必ず排水路につなげ（写真5）、生育期間を通じてこまめに手入れを行います。

明渠のうち圃場内小明渠（写真6）は、播種後に施工が可能です。小麦を部分的に潰してしまいましたが、収量への影響はほとんどありません。



写真4 排水溝（額縁明渠）の設置
排水溝への集水は耕起土層からの流出が多いので、排水溝は耕起深より少なくとも5～10cmは深く掘ることが必要。



写真5 排水口の掘り下げ
水尻は大きく掘り下げ、排水溝とつなげ、フリードレン下部から排水。

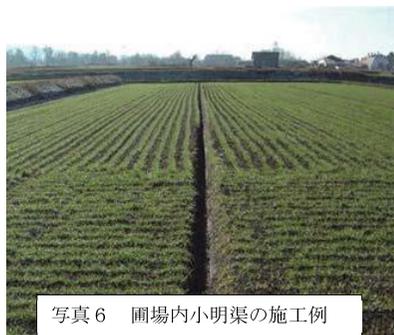


写真6 圃場内小明渠の施工例

3 土壌改良資材・堆肥の施用

(1) 土壌改良資材

県内の水田転換畑は土壌の酸性化が進んでいる圃場が多くなっています。麦類の生育が阻害される条件では、病害に対する抵抗性が下がり、赤かび病に感染する可能性が高まります。土壌診断を実施し、石灰資材の投入を行ってください。なお、石灰資材投入の効果は施用後直ちに現れるものではありませんが、計画的な圃場利用の中で、積極的に施用することが重要です。

(2) 堆肥

堆肥等の有機物には土を膨軟にする、根張りをよくする、施肥の効果を高める、などの利点があり、継続して施用すると化学肥料のみを使用した圃場より収量・品質が向上します。石灰資材と同様、計画的な圃場利用の中で積極的に施用してください。

4 ブラウ耕

水稲栽培では一般的にロータリ耕が行われますが、小麦栽培では雑草の抑制や水はけの改善のためにブラウ耕が望ましいケースもあります。ブラウ耕等を行う場合は、作土や耕盤の深さなどを調査し、不良な重粘土、やせた下層土が作土に混入することを避けるなど、土壌タイプを考慮し、事前に十分に検討してください。

5 砕土・整地

大きな土塊が圃場にある場合は、砕土・整地作業を十分に行う必要があります。土塊が多いと播種精度が落ち、発芽が劣るなどの問題が発生しますので、水稲から転換後1～2年は砕土・整地をできるだけ丁寧に行います。

特に砕土の良否は発芽に大きく影響するため、一般的に地表部10cm層の砕土率（粒径2cm以下の土塊の割合）を70%以上にする必要があるとされています。

砕土作業は、ハロー耕（ツースハロー、ドライブハロー、バーチカルハロー）やロータリ耕が効率よく行えますが、作業時の土壌水分によっては砕土が劣る場合があります。また、ブラウ耕を行った場合、砕土作業はブラウ耕の方向に対して直角か45°の角度で行い、砕土後は圃場を均平にするため整地します。

一般にロータリ耕のあとは土壌が水分を含みやすく、降雨があると乾きにくくなるため、播種直前に行うようにします。アップカットロータリ（逆転耕）を用いると、表層の砕土率が高く、下層は粗い二層構造の土壌を形成し、有機物の埋め込み性にも優れるため、その後の播種作業も楽に行うことができます。

6 播種

(1) 適期播種

播種期が遅くなると、年内に確保できる茎数が少なく、穂数不足による減収や、根張りが少ないため凍上害にあうことが多くなり、播種晩限を過ぎるほど分けつが確保できず減収程度が大きくなるので、適期播種に努めてください（表1）。

表1 県内の地帯別播種適期

地帯	播種期(月日)	
	早限	晩限
高標高地	9月15日	9月25日
県北部	9月15日	9月30日
県中部及び沿岸北部	9月20日	10月5日
県南部(沿岸南部)	9月25日	10月20日

(2) 種子予措

種子は、病害汚染等の無い健全で優良なものを使用する。
種子消毒は、種子伝染性病害の発生防止の観点から、必ず実施する。

(3) 施肥

麦類の施肥は、越冬後の追肥の占める割合が高くなりますが、基肥により、越冬前に十分な生育量を確保し、赤かび病に強い健全な麦を生産します。

標準的な基肥量を表2に示していますが、土壌改良目標値を満たした圃場での施肥管理は、「**補給型施肥基準**」を適用することができます。

補給型施肥とは、「圃場からの収穫物による肥料分の持ち出し量」と浸透水による「土壌養分の溶脱量」を施肥によって補給する、という考え方で作られた施肥基準です。この施肥基準では、堆肥と化学肥料を区別することなく、含まれる肥料成分の合計で施肥設計しますので、堆肥の活用で肥料費を抑えることも可能です。詳しくは最寄りの農業改良普及センターにお問い合わせください。

表2 麦類の標準的な基肥量(成分 kg/10a)

窒素 (全域)	リン酸		カリ (全域)
	中南部 転換畑	中北部 普通畑	
4～6	10～15	15～20	10～12

※水田から転換して初年目、2年目の「ゆきちから」の基肥は、茎数確保のため窒素6 kg/10aとする。

(4) 播種量と播種方法

ア 播種量

品種別の播種量・目標出芽本数は表3を基本とします。ただし、圃場条件が整わず、やむを得ず播種が遅れた場合には、播種期限から1週間遅れるごとに播種量を1割ずつ増やします。

砕土が粗い、土壌が湿っているなどの条件下では苗立ち率が低下します。このような条件下で播種する場合、播種量を1割程度増やすなどの対策を行います。

また、ナンブコムギでは、前作で縞萎縮病が発生した圃場での作付けはできるだけ回避しますが、やむを得ず連作する場合には、播種時期はできるだけ適期内の晩播とし、播種量を標準の3割増とし、茎数の確保を図ります。

イ 播種方法

ドリル播きでの播種深度は3 cm程度を目標とし、全面全層播きでは、均一に散播のうえハローなどで浅く(5 cm深程度)攪拌し覆土します。播種深度が深すぎると、出芽のバラツキや出芽率の低下、生育の遅れが問題になり、浅すぎると、凍上害や鳥害、干ばつ害、除草剤の薬害などが生じやすくなります。

表3 品種別の播種量と目標出芽本数

品種名	播種量 (kg/10a)		目標出芽本数 (株/㎡)
	ドリル播	全面全層播	
ナンブコムギ	4～6	5～8	70～110
ゆきちから	6～8	8～10	120～160
銀河のちから	6～8	8～10	120～160
ナンブキラリ	6～8	8～10	110～150

7 雑草防除

イネ科の雑草は赤かび病の第一次伝染源となるため、除草剤の利用や圃場周囲の草刈りなどによる耕種的な防除により、早期に防除することが重要です。

(1) 非選択性除草剤

特に連作では、前年に発生した雑草が播種前に出芽し、耕起で十分に埋没できない場合があります。

す。このような場合、耕起前または播種前に非選択性除草剤を利用し、雑草の出芽個体を防除します。なお、難防除雑草のネズミムギ(イタアライグサ)に対しては、耕起前に(イタアライグサ出芽後)に非選択性除草剤を散布し、播種後の土壌処理剤散布までできるだけ早く(10日以内)行うと効果的です。

(2) 土壌処理剤

初期に発生した雑草ほど生育期間が長くなり、大きな害を及ぼしますので、播種後に出芽する雑草を土壌処理剤によって確実に防除します。

耕起から播種、土壌処理剤散布までは、間隔を開けずに実施します。また、高い効果を得るため、①砕土・整地を丁寧に行う、②散布のタイミングを逃さない、③適湿条件で散布することが重要です。

次号は9月25日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第6号 野菜

発行日	令和7年8月28日	携帯電話用 二次元コード 
発行	岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部	
編集	岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）	
「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます パソコン、携帯電話から「 https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/ 」		

- ◆ **共通** 台風等の気象災害に対する事前対策を徹底しましょう。
- ◆ **果菜類【施設】** 気象条件に応じた温湿度管理やかん水管理を徹底しましょう。
- ◆ **果菜類【露地】** 草勢維持と病虫害防除を徹底しましょう。
- ◆ **葉茎菜類** 雨よけほうれんそうは適期の品種切り替えと病虫害防除を徹底しましょう。露地葉茎菜類は病虫害防除と適期収穫を徹底しましょう。

1 生育概況

(1) 果菜類【施設】

- ・ きゅうりは、抑制作型の定植が終わり、概ね順調に生育しています。病虫害では、アブラムシ類、アザミウマ類、オオタバコガの発生が見られます。
- ・ トマトは、着果負担による草勢の低下や、高温による落花、日焼け果などが見られています。病虫害では、葉かび病、すすかび病、アザミウマ類、コナジラミ類、オオタバコガの発生が見られます。
- ・ ピーマンは、概ね順調な生育ですが、高温等による尻腐果が見られます。病虫害では斑点病、アザミウマ類、タバコガ類、一部で青枯病が見られます。例年よりもカメムシ類による被害が多く見られています。

(2) 果菜類【露地】

- ・ きゅうりは、草勢の低下による曲がり果や尻細果が見られていましたが、回復傾向です。病虫害では、べと病や炭疽病、褐斑病が見られています。
- ・ ピーマンは、乾燥による尻腐果などの発生が増加していましたが、降雨があった地域では減少傾向です。病虫害では、斑点病、斑点細菌病、タバコガ類の発生が見られます。また、例年よりもカメムシ類による被害が多く見られています。

(3) 葉茎菜類

- ・ 雨よけほうれんそうは、高温・乾燥の影響による生育停滞が見られましたが、降雨があった地域では回復傾向です。病虫害では、萎凋病、株腐病、アザミウマ類、ヨトウムシ、シロオビノメイガの発生が見られます。
- ・ 高冷地のキャベツ・レタスは、高温・少雨の影響により定植苗の活着不良や生育停滞、下葉の枯れやチップバーン、抽苔が見られましたが、回復傾向です。病虫害では腐敗病、軟腐病、株腐病、タマナギンウワバ、オオタバコガの発生が見られます。
- ・ ねぎは、生育にやや遅れが見られるものの、8月の降雨により回復傾向です。病虫害では、白絹病、軟腐病、ネギアザミウマの発生が見られます。

2 技術対策

(1) 台風等による大雨や強風対策

台風等による大雨や強風が多い時期になります。ハウス等の圃場周囲の明渠や排水溝の補修を行うなど、排水対策を再度確認してください。ハウスビニールの破れ、ハウスバンドの緩みの確認などを行い、必要な補修・補強を行ってください。

(2) 果菜類【施設】の管理

ア 全般

東北地方の1ヶ月予報（仙台管区気象台8月21日発表）では、平均気温は高い確率70%と予想されており、期間の前半（8月23日～9月5日）は気温がかなり高くなる見込みですが、通常年であれば、これからの時期は秋雨前線が活発になり、施設内が高湿度になる恐れがあります。そのため、気象条件に応じた温湿度・かん水管理を徹底します。特に高温の際は、遮光や換気を実施して、各種障害果の発生軽減を図ります。また、施設内が高湿度となる恐れがある場合は、適切な換気や摘葉等の実施により、適正な湿度環境（湿度70%～85%、飽差3～9）を維持します。

イ きゅうり

- ・ 早熟作型では、茎葉の過繁茂による側枝の発生不足や通気不足による病虫害の発生を防ぐため、適宜、摘葉や整枝を行い、あわせて防除を行います。
- ・ 抑制作型では、生育が旺盛で側枝の節間が長くなるため、整枝、摘葉作業が遅れないように管理します。また、ウイルス病（ZYMV）が発生しやすい時期のため、伝染源となる発病株は見つけ次第抜取ります。



写真1 ZYMVの症状（左：葉、右：果実）

ウ トマト

- ・ 裂果の発生を防ぐために、かん水は土壌水分の急激な変化を起こさないよう少量多回数とし、ハウス外からの雨水の横浸透にも留意します。また、9月以降は早朝の急激な気温上昇で果実が結露しやすくなるので、換気を行い、果実表面を早く乾かすようにします。
- ・ 主枝の摘心は、収穫打ち切りの日から逆算して決めます（10月末まで収穫する場合、9月上旬頃が目安）。開花房の上の葉を2～3枚残して摘心すると、放任よりも果実肥大が良くなります。
- ・ 温度管理では、最低気温が14℃を下回るようになったら保温を行います。
- ・ 病害では、葉かび病とすすかび病は見た目では区別ができませんので、顕微鏡での分生子（胞子）の確認等について、最寄りの普及センターに相談のうえ、効果のある薬剤を選択してください。

エ ピーマン

高温の影響による石果（種子不足）や、今後気温の低下とともに障害果等の発生が増えてきますので、気象条件に応じたこまめな温度管理に努めてください。

- ・ かん水は土壌水分の急激な変化を起こさないよう少量多回数とし、ハウス外からの雨水の横浸透にも留意します。
- ・ 気温は、最低気温 16℃をめに保温を開始し、最高気温は 25～27℃を目標とし、32℃以上の高温としないように管理します。
- ・ 気温の低下に伴い、ハウスを閉め切ることが多くなり、湿度が上昇し病気が発生しやすくなるので、日中は少しでも換気を行いハウス内の空気を動かすようにします。
- ・ 整枝は、混み合っている部分の枝を間引く（写真2の赤丸部分を中心に）、主枝摘心後に発生する枝を2～3節で止める程度とし、強い摘心は避けます。
- ・ 気温低下とともに収穫量も減ってくるため、追肥量も減らし、翌年に残肥が残らないようにします。
- ・ 防除は、斑点病、灰色かび病を中心に行います。



写真2 ピーマンV字仕立て

(3) 果菜類【露地】の管理

前述の1ヶ月予報（仙台管区気象台8月21日発表）では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が少ない見込みです。最新の天気予報等も参考にしながら、定期的なかん水を行うなど、土壌水分の安定化を図ります。

ア きゅうり

- ・ 秋口は、夏期の着果負担による成り疲れや急激な気温の変化で草勢が低下するため、不良果などの摘果、摘葉、追肥で草勢回復を図ります。
- ・ 摘心はアーチの外側に飛び出しているところを指先で止める程度にとどめます。
- ・ 摘葉は、日光がアーチ内部に十分入り、新葉が常に発生するように行います（図）。
- ・ 追肥は速効性の資材を利用します。液肥を薄い濃度で葉面散布することも有効です。
- ・ 防除は、古葉や病葉を摘葉し、アーチの上部にも薬剤がかかるように散布してください。

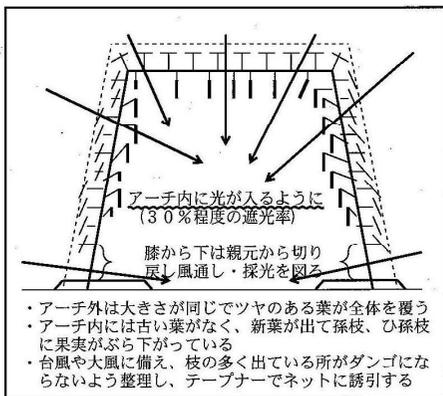


図 露地きゅうり後半の管理ポイント

イ ピーマン

- 着果量が多い時期になりますが、高温下で形成された花器は肥大能力が劣り、収穫遅れによる赤果の発生が多くなります。また品種によっては、気温低下による黒変果の発生が多くなります。
- ・ 尻腐果の発生軽減として、かん水による土壌水分の安定化を図ります。
 - ・ 草勢の維持を優先し枝は放任とします。
 - ・ 追肥は9月中旬までを目安に終了します。
 - ・ 変形果、障害果等で出荷に向かない果実は、早めに摘果し草勢維持を図ります。
 - ・ 防除は、斑点病、斑点細菌病、タバコガ類を中心に行います。

(4) 葉茎菜類の管理

ア 雨よけほうれんそう

- ・ 現在秋まき品種への切り替え時期ですが、前述の1ヶ月予報（仙台管区気象台8月21日発表）では平均気温は高いと予想され、特に期間の前半（8月23日～9月5日）は気温がかなり高くなる見込みです。最新の天気予報等も参考にしながら、各地域で示されている品種体系に基づき、適期に品種の切り替えを行います。
- ・ ハウスを閉める時間が長くなると、べと病が発生しやすいので、抵抗性品種であっても日中は積極的に換気を行い、適用のある殺菌剤を予防散布します。
- ・ 害虫では、ホウレンソウケナガコナダニやシロオビノメイガ等が発生しやすいので、適用のある殺菌剤で適期に防除します。

イ キャベツ・レタス

- 高冷地では今年の定植は概ね終了しています。今後は栽培管理をしっかり行い、適期収穫により収穫率の向上を目指します。
- ・ 腐敗病、軟腐病は最低気温が 20℃を上回り、かつ降雨がある場合に発生が多くなります。今後も平年より高い気温が予想されるため、殺菌剤を予防散布します。
 - ・ 害虫では、ヨトウムシ、オオタバコガ等が発生しやすいので、適期防除を実施します。
 - ・ 収穫終了後の廃棄株や残渣は放置せず、病害虫の発生源とならないように注意してください。

ウ おぎ

- 台風等の強風による倒伏等の被害を減らすため、適期での土寄せと黄色斑紋病斑（葉枯病 写真3）による品質低下対策を徹底してください。
- ・ 出荷計画を明確にし、それに合わせて最終培土を実施する時期を決めてください。最終培土は、収穫の 20 日前～30 日前を目安に行います。
 - ・ 防除は、べと病、葉枯病、ネギアザミウマを主な対象として実施してください。



写真3 黄色斑紋病斑の症状

エ アスパラガス

- ・ これからの追肥は、貯蔵根への養分転流の妨げになるので行わないようにします。
- ・ 茎葉を最後まで健全に保つため、病害虫防除を徹底します。
- ・ 倒伏防止対策をしている場合は、台風等に備えて再度ネットや誘引線の確認を行います（写真4）。



写真4 フラワーネット利用による倒伏防止例

次号は9月25日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良からない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第6号 花き

発行日	令和7年8月28日	携帯電話用 二次元コード 
発行	岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部	
編集	岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）	
「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます パソコン、携帯電話から「 https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/ 」		

- ◆ **共通** 圃場が乾燥する前にかん水しましょう。
適期収穫と出荷選別を徹底しましょう。
台風等による強風に備え、ネットと支柱を点検、補強しましょう。
- ◆ **りんどう** 花腐菌核病、黒斑病、オオタバコガ等害虫の適期防除を行いましょう。
定植圃場や収穫後圃場も害虫防除を継続しましょう。
- ◆ **小ぎく** オオタバコガ、ハダニ類等害虫防除を徹底しましょう。
収穫後管理を適切に行い、健全な伏せ込み苗・株を確保しましょう。

りんどう

1 生育概況

盆需要期向けの早生種は、高温による開花遅延や日焼け花の発生がみられ、盆需要期に出荷が間に合わない品種や圃場がみられました。また、中生種、晩生種の開花が始まっています。

害虫では、黒斑病やハダニ類、オオタバコガの発生が増加しています。また、葉枯病、アザミウマ類、リンドウホソハマキの発生がみられています。

2 栽培管理

(1) かん水

高温が続いていますので、圃場が過度に乾燥しないよう通路かん水を行います。ただし、高温時に長時間滞水すると根が弱り、株に障害が発生する場合がありますので、かん水の時間帯に注意します。

(2) ネット管理

茎が曲がらないよう随時ネットの位置を調整します。併せて、今後の台風等による強風に備え、ネットと支柱を点検し補強します。

(3) 収穫・調製

収穫前に各地域の目揃会等で出荷規格を確認し、それに応じた選別、調製を行い出荷します。特に、適切な開花状態（切り前）で出荷できるよう収穫遅れに注意し適期に収穫します。

収穫時は、出荷規格に合わせ、折り取る切り花の長さを調節します。株養成を充実させるため、下葉ができるだけ多く残るように収穫します。下葉を50cm以上残して収穫する場合は、株養成用の茎を残さずに全茎を収穫します。

(4) 残花処理

害虫防除等を目的として、収穫後圃場の花蕾が着いている部分の茎を折り取ります。この作業は、花腐菌核病やオオタバコガ、アブラムシ類、アザミウマ類の防除に特に有効です。

3 病虫害防除

(1) 花腐菌核病

夏の暑さを経過して気温が低下すると、圃場に病原菌の子実体（きのこ）が発生し（写真1）、胞子が花蕾に付着して感染します。また、冷涼地ほど早く発生する特徴があります。青花や紫花品種では感染すると花弁が鮮やかなピンク色に変色しますが（写真2）、桃花や白花品種では淡褐色となり、花色によって病斑の色が異なります。

県北部では子実体の発生が始まっています。平年の防除開始時期は、県北部及び山間地域で8月5～6半旬、県中部以南の平坦地で9月第1～2半旬となっていますので、今後、各地域の普及センターの情報等を参考に防除を開始します。併せて、感染・伝染源となる残花の除去を徹底します。



写真1 株元に形成された子実体(きのこ)
(傘の直径は大きいもので5mm程度)



写真2 花腐菌核病発生花(右側)
(左の無病花と比べてピンク色に変色)

(2) 黒斑病

8月に入り降雨量の増加に伴い、発生が増えています。治療は困難ですので降雨前の予防散布を継続します。薬剤散布時は、がく片、側芽、花弁にも発生しますので、採花部に薬剤が付着するように散布します。また、収穫が終わった圃場で感染が拡大し、隣接する圃場の感染源となっている事例がみられますので、収穫後も薬剤散布を継続します。

黒斑病は草勢の衰え、葉が黄化した株で発生しやすくなります。降水後に通路が滞水しないよう排水対策を併せて実施します。

(3) 葉枯病

発生が続いています。秋季にも発生が拡大する場合がありますので、降雨前の予防散布を継続します。収穫前の圃場と合わせ、収穫が終わった圃場や新植圃場の防除も行います。

(4) オオタバコガ

発生が増えています。花蕾内部を好んで食害するため、虫糞を目安に見つけ次第捕殺します。また、収穫しない花蕾を圃場に残すことで発生源となりますので、残花は摘みとり圃場外で処分します（写真3）。

薬剤防除については、一般に老齢幼虫には防除効果が劣るため、発生初期に有効薬剤を散布します。オオタバコガは花蕾部に多く産卵しますので、花蕾部に薬剤が付着するように散布します（写真4）。



写真3 オオタバコガの食害痕



写真4 花卉に産卵されたオオタバコガの卵

収穫前圃場はもちろんですが、収穫後も継続して薬剤散布を行います。

(2) オオタバコガ

発生が増加しています。防除のポイントはりんどうと同様ですが、着蕾期以降に発生した場合、中齢以降の幼虫は花蕾に潜り込んで食害していることが多いので、食毒作用のある有効薬剤を選択します(写真5、6)。



写真5 オオタバコガの蕾の食害痕(内部を食害)



写真6 オオタバコガの花(筒状花、子房部分)の食害

(5) ハダニ類

発生が多い状況が続いています。今後も高温傾向で推移した場合、例年よりも遅い時期まで発生する可能性があります。発生状況によっては追加散布を検討しますが、同一系統薬剤は年1回の使用を基本とします。

小ぎく

1 生育概況

8月咲き品種は、高温により開花が遅れ、盆需要期に出荷が間に合わない品種や圃場がみられました。9月咲き品種は着蕾が始まっていますが、草丈がやや短くなっています。

病虫害では、オオタバコガ、ハダニ類、ヨトウムシ類の被害が増えています。また、アザミウマ類、アブラムシ類の発生が継続してみられています。

2 栽培管理

(1) かん水・排水対策

気温が高い状況が続いています。乾燥が続く場合は茎葉が萎れる前にかん水します。

湿害に弱いため、大雨後は排水対策が重要です。圃場内が冠水した場合は、溝切り等によって速やかに排水を促します。

(2) ネット管理

りんどうと同様、茎の曲がりが生じないように、随時フラワーネットの位置を調整します。また、今後の台風へ備え、ネットと支柱を点検・補強します。

(3) 収穫後管理

伏せ込みに利用する株は、収穫後に地上部が伸びすぎないように地際5~10cmのところを台刈りをします。その後、速効性の化成肥料を窒素成分量で3kg/10a程度施用します。マルチ栽培では、台刈り後にマルチを除去して土寄せし、生育を促すのが基本ですが、除草労力を考慮して決めます。

なお、かき芽で伏せ込む場合は、台刈り後に発生した側枝に土寄せをして側枝の発根を促します。

3 病虫害防除

(1) 白さび病

気温が高く、発生は少なくなっていますが、今後気温の低下とともに再び発生が増えてきます。

(3) ハダニ類

発生が多い状況が続いています。圃場をよく観察し、発生初期の防除を心がけます。ハダニ類に葉液が付着しなければ薬剤の効果を得られませんので、葉裏にしっかりと薬剤がかかるよう、動力噴霧器の圧力を高めにして丁寧に散布します。

4 伏せ込み床の施肥について

同じハウスで何年も伏せ込みをしている場合、長年の肥料成分の蓄積(塩類集積)によって根が肥料焼けを起こし生育不良となる事例がみられます(写真7)。

積極的に土壌診断を行い、処方箋に基づいた適正施肥を行います。また、塩類集積が過度に進行している場合は、土壌中の肥料成分を減らす(除塩) ことが必要となりますので、最寄りの普及センターまでご相談ください。



写真7 塩類集積による伏せ込み株の生育不良
※ 根の障害により養水分を十分に吸収できず、葉の黄化や生育不良がみられる

次号は9月25日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。

農作物技術情報 第6号 果樹

発行日 令和7年8月28日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコン、携帯電話から「https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/」



- ◆ りんご 早生種はすぐりもぎが基本です。病虫害防除は、発生予察と適期の薬剤散布を徹底しましょう。なお、早生種は収穫期を迎えるため、農薬の使用基準を遵守し、ドリフトには十分注意しましょう。
- ◆ ぶどう 一般的に熟期が早まっています。食味を重視した適期収穫を徹底しましょう。

りんご 1 生育概況

生育診断圃の果実生育（横径）は、8月1日時点の県平均で、「ジョナゴールド」が前年比94%、前年比92%「ふじ」が前年比97%、前年比89%です（表1）。
 本年は、6月以降の降水量が少なく、果実の肥大は鈍化する傾向が見られています。
 なお、気温は高温で推移しており、向こう1か月も高い予報（8/21、仙台管区気象台発表）であることから、収穫に向けては、令和7年6月16日発行の「農作物技術情報特別号 高温対策」を参考に、着色の遅延や収穫前落果等に注意するほか、日焼けなどの被害を受けた果実を中心に必要に応じて摘果を実施します。

表1 生育診断圃における果実肥大（横径）状況（8月1日現在）（単位：mm）

市町村	地区	ジョナゴールド				ふじ					
		本年 (R7)	平年	比	前年 (R6)	比	本年 (R7)	平年	比	前年 (R6)	比
盛岡市	三ツ割	63.9	69.7	92%	69.6	92%	55.4	62.7	88%	67.8	82%
花巻市	石鳥谷※2	64.5	71.1	91%	72.3	89%	57.6	62.5	92%	69.7	83%
奥州市	江刺樽輪	56.4	66.6	85%	64.0	88%	54.3	63.0	86%	60.5	90%
一関市	狐禪寺※3	66.9	69.9	96%	68.8	97%	61.0	60.9	100%	64.0	95%
陸前高田市	米崎	70.5	70.0	101%	75.2	94%	64.8	63.2	103%	67.5	96%
宮古市	崎山	-	-	-	-	-	68.4	64.2	107%	77.0	89%
二戸市	金田一	67.4	69.1	98%	72.8	93%	65.6	63.2	104%	72.6	90%
県平均値※1(参考)		64.9	69.4	94%	70.5	92%	61.0	62.8	97%	68.4	89%

※1 県平均値に農研センターのデータは含まれていない。 ※2 R4年度より定点が変更となったため、平年値は花巻市上根子(前定点)の値を使用。
 ※3 R2年度より定点が変更となったため、平年値は一関市花泉(前定点)の値を使用。 ※4 平年値は昭和60年～令和6年の平均

2 栽培管理のポイント

(1) 早生種

- ア 仙台管区気象台の1ヶ月予報（8/21発表）では、向こう1か月の天候は、平均気温は高く、日照時間は多く、降水量は平年並みの見通しです。このため、**高温により着色が緩慢となり、果皮色と内部品質が一致しないまま収穫期を迎える可能性もあります。過度な着色は期待せず、食味・硬度等を確認の上、適期収穫に努めてください。**
- イ **直射日光が果皮へ急に当たると日焼けが発生しますので、葉摘みは徐々に進めます。高温が予想される日には、極力、果面の温度が上がる午後から実施します。**
- ウ 今年の満開日から見た収穫期の目安は表2のとおりですが、この目安は北上市成田の満開日より算出しています。前述のとおり、食味・硬度等を確認の上、適期収穫に努めます。
- エ すぐりもぎを基本とし、特に熟期が不揃いな「つがる」や「きおう」では徹底します。

表2 早生種の収穫期の目安

品種	満開日※1	収穫期までの満開後数	満開後日数による収穫予想日※2	収穫期の果実品質の目安		
				硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	デンプン指数 カラーチャート指数※3
きおう	5月7日	115 ~ 125日	8月30日 ~ 9月9日	13~14	13以上	2~3 2.5~3.5
つがる	5月7日	115 ~ 125日	8月30日 ~ 9月9日	13~14	12~14	3~3.5 2~3

※1 満開日は農業研究センター(北上市成田)観測日 ※2 きおう、つがるは収穫開始予想日
 ※3 つがるはふじ地色用、きおうはきおう表面色用を使用

(2) 中生種

- ア 「紅いわて」の収穫
 - (ア) 「紅いわて」は着色の良い品種であるため、着色のみで収穫を判断すると、収穫時期が早くなってしまい、食味が劣り、品種の評価を落とすことになります。食味を重視し、表3の目安を参考に収穫してください。
 - (イ) 系統販売など輸送して販売する場合は、デンプン指数2~2.5、直接販売する場合はデンプン指数2程度を目安に収穫してください。
 - (ウ) 夏季が高温の年に、「紅いわて」に早期みつ症（写真1）が発生することがあります。発生程度は軽微なものが多いものの、みつ入りが多くなるほど収穫時のみつ褐変（写真2）が生じる可能性が高くなりますので、着色が進んだ果実で果皮上からみつ入りが判断できる場合は、出荷物に混入させないように注意します。

表3 「紅いわて」の収穫期の目安

品種	満開日※1	収穫期までの満開後数	満開後日数による収穫予想日※2	収穫期の果実品質の目安		
				硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	デンプン指数
紅いわて	5月4日	130 ~ 140日	9月11日 ~ 9月21日	13以上	13以上	2~2.5

※: 満開日は農業研究センター(北上市成田)観測日

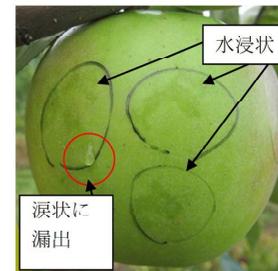


写真1 早期みつ症果の症状



写真2 収穫時のみつ褐変の症状

- イ 中生品種（「紅いわて」以外）の着色管理
 (ア)「ジョナゴールド」などの着色管理は、1回目の軽い葉摘み終了後、陽光面の着色が進んでから、葉カゲや枝カゲをつくらないように玉回しを収穫まで2～3回行います。玉回しと同時に適当な強さに葉を摘みます。
 (イ)着色適温は10～20℃です。気温の高い日が続くと、必要以上に葉摘みを強くしても着色は進まないため、過度の葉摘みとしないよう注意します。

(3) 晩生種

- ア 「ふじ」は、着色期間が30～40日間と長いので、陽光面が着色してきた頃（9月下旬～10月上旬）と10月中～下旬の2回に分けて葉摘みを行います。1回目の葉摘みは、果実に密着する葉を摘み程度とし、2回目は適当な強さまで葉を摘み、陽光面の着色が進んできたら葉カゲや枝カゲを残さないよう玉回しを行います。
 イ 過度の葉摘みは、葉が少なくなり果実の着色やみつ入りが劣り、翌年の花芽の充実が悪くなるなどマイナスの影響が出ますので注意してください。

3 病害虫防除および気象災害対策

(1) 病害虫防除

- ア 褐斑病やハダニ類の発生が県内で広くみられているため、病害虫防除所が発表する病害虫発生予察情報を参考に、必要に応じて防除を実施します。
 イ 昨年スモモヒメシクイの被害が合った園地や、9月が高温で経過する場合は、シクイムシ類に効果のある薬剤を9月上旬～中旬に散布します。
 ウ 果樹カメムシ類が大量に飛来した場合は、効果の高い薬剤により速やかに防除を行います。
 エ 早生品種の収穫期となりましたので、農薬の使用にあたっては、ドリフトや使用基準（倍率、収穫前日数等）に特に注意してください。

(2) 台風対策

強風で倒木が発生しないよう、防風ネットの設置、支柱との結束を確認してください。また、最新の気象情報を確認し、台風の接近前に収穫を進めるなど、被害を最小限にできるよう対策を講じてください。

(3) 湿害対策

台風に伴う大雨や秋の長雨などで園地内が過湿になった場合、根部の障害による樹勢衰弱や、裂果等が発生しやすくなります。園地内に水が停滞しないよう、溝を掘るなど排水対策を講じてください。

ぶどう

1 生育概況

8月15日時点の定点調査における「キャンベルアーリー」の果実品質（表4）は、果径が平年比97%で、概ね平年並みですが、少雨の影響で肥大がやや鈍化する傾向が見られます。一方、高温の影響で、着色はやや遅れているものの、糖度は平年及び前年より高く、収穫の目安となる糖度に達し、熟度は平年及び前年より進んでいます。

なお、向こう1か月の天候は、平均気温は高く、日照時間は多く、降水量は平年並み見通しです（8/21、仙台管区気象台）。このため、ぶどう全般については、今後も、**高温により着色が緩慢となる可能性もありますので、過度な着色は期待せずに、食味を重視した適期収穫を行います。**

表4 ぶどう(キャンベルアーリー)の生育状況(観測地点:紫波町赤沢)

調査年次	8月15日時点での生育				
	新梢長 (cm)	節数 (葉数)	房長 (cm)	果径 (mm)	糖度 (brix%)
本年(R7)	164	17.0	16.1	18.4	15.8
平年	138	17.3	15.4	19.0	9.2
平年差・比	119%	98%	105%	97%	172%
前年(R6)	216	17.0	16.3	20.8	13.6
前年差・比	76%	100%	99%	88%	116%

※平年値のうち、結実率は、平成9年から令和5年の平均値、他の数値は、昭和49年から令和5年の平均値。

2 収穫

収穫は着色、糖度などの食味に留意しながら、品種ごとの基準糖度に達してから行います。過熱になると商品価値が低下し、裂果や脱粒の発生も助長しますので、過度に着色は期待せず適期収穫に努めてください。

※ 詳細は、7月31日発行の「農作物技術情報第5号 果樹」を参照ください。

次号は9月25日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。	
熱中症防止	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。 ■ 帽子の着用や、汗を乾かしやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。 ■ 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。
農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。	

農作物技術情報 第6号 畜産

発行日 令和7年8月28日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 飼料用とうもろこし 収穫機械やサイロの点検、資材の準備を早めに行いましょう。でんぷん含有量が少ない時は、添加剤を使用しましょう。サイレージ調製は十分な踏圧と速やかな密封を行いましょう。更新や追播は、播種が遅れないように作業を進めましょう。ライムギなどの冬作物で粗飼料を確保しましょう。
 - ◆ 牧 草
 - ◆ 冬 作 物
 - ◆ 大 家 畜
- 牛舎の暑熱対策を継続して実施し、健康観察や良質飼料給与を徹底して体力の回復に努めましょう。

1 飼料用とうもろこし

(1) 生育状況

7月は降雨が極めて少なかったため、一部ほ場で水不足による葉の丸まりなどがみられましたが（写真1）、8月の降雨により回復傾向にあります。雄穂の抽出は7月中旬からみられ、例年より生育が早まっています。



写真1 水不足の状況 葉の丸まり

(2)刈取適期の判定

収穫適期は、「黄熟期」です。これより早いと、デンプンの蓄積が不十分であったり、排汁とともに栄養分が流出したりします。また、黄熟期より遅れると、消化率が低下するほか、水分が下がりすぎて踏圧、密封が不十分となりカビの発生や発酵品質が低下しやすくなります。

黄熟期の判定は「ミルクライン」による方法が簡単です（写真2）。とうもろこしの雌穂（実）の中程を折って先端側の子実を見ると、黄色い部分と乳白色の部分に分かれています。この境目を「ミルクライン」と言い、熟度が進むにつれて子実の外側から中心に向かって、黄色い部分が増えていきます。収穫適期である黄熟中期は、ミルクラインが子実の外側から40～50%に達した頃です。なお、コーンクラッシャーによる破碎処理を行う場合、収穫期を黄熟後期～完熟期まで拡大することが可能です。



写真2 黄熟中期のミルクライン

これまででは、絹糸抽出から40～50日程度で黄熟期に到達するとされてきましたが、近年は気温が高い期間が長くなっていることから、黄熟期の到達はこれよりも早くなると考えられます。収穫機械やサイロの点検、資材準備を早めに行い、収穫に備えます。

(3) サイレージ調製

ア 細断

破碎処理を行わない場合で切断長10mm程度とします。破碎処理を行う場合は、切断長19mm、ローラー幅5mmに調整します。黄熟後期以降は、消化率を高めるためローラー幅を2-3mmに調整します。目的のサイズで細断できるよう、また切断面が鋭利となるよう、ハーベスタの刃の調整と研磨を行います。

イ 添加剤の活用

水分不足による葉の枯れ上がりや不稔の雌穂が顕著にみられる場合、または、収穫遅延や病害等で枯れ上がりが進んだ場合は、収穫・調製時に繊維分解酵素を含む添加剤等を使用して、良質発酵を図ります。

ウ 詰め込み・踏圧

サイレージの出来の良し悪しは、踏圧がきちんとできるか否かにかかってきます。踏圧をしっかり行うことにより、高水分であっても発酵品質をある程度安定させることができます。踏圧作業の担当者は、時には運搬ダンプを待たせてもしっかり踏圧を行うことが大切です。

(ア) 十分な踏圧を行うため、踏圧作業のペースに合わせて、詰め込み 原料の収穫、運搬ペースを調整します。

(イ) 土砂の混入を避けるため、運搬トラックはサイロの奥まで入らず、サイロの手前で詰め込み原料を下ろします。フロントローダ等を用いて、サイロ全体に薄く広げ、速やかに踏圧を行います。

(ウ) サイロの壁沿いや角などの重機では踏圧できない場所は、人の足で踏圧します。人が歩いても足跡が残らない程度まで十分に踏み込みます。

エ 密封

(ア) 変敗の原因となる好気性微生物の増殖を抑えるためには、詰め込み作業後速やかにサイロビニールやスタックシートなどで原料を密封し、風でシートが浮かないよう、廃タイヤ等で重石をします。

(イ) 詰め込み作業は1日で終了させるのが理想です。やむを得ず2日に渡る時は、1日目の作業終了時にギ酸やプロピオン酸を散布して仮被覆します。また、気密性のサイロではガスによる窒息、中毒事故の恐れがありますので、十分に換気してから2日目の作業を始めてください。

(ウ) 刈り遅れや霜にあたったとうもろこしは、水分が低く、カビの発生や変敗する恐れがあります。プロピオン酸・ギ酸などの添加剤の使用を検討します。

2 牧 草

(1) 生育状況

2番草の収量は、高温・少雨のため、やや不良となっています。夏枯れ症状がみられる草地も散見されます。

(2) 追播、草地更新

夏枯れ等で生産性が低下した草地は、草地更新や追播を実施します。牧草の播種適期は9月上～中旬を目安としていましたが、近年は9月も乾燥や高温となる日が多くなりました（表1）。寒地型牧草を播種する場合は、日平均気温で25℃を超える日が続くような時期を避け、かつ、できるだけ早期に行います。

表1 9月の日平均気温が25℃を超えた回数

観測地点	令和5年 (最後に25℃以上となった月日)	令和6年 (最後に25℃以上となった月日)
盛岡	10回(9/18)	4回(9/12)
北上	12回(9/18)	7回(9/13)
一関	15回(9/19)	7回(9/13)
久慈	4回(9/18)	0回
二戸	4回(9/18)	1回(9/11)

3 ライムギ

とうもろこしや牧草が減収した場合は、ライムギ等の冬作物を播種して粗飼料を確保します。ライムギの10aあたりの現物収量は、約2トンです。

表2 ライ麦栽培の目安

9月下旬～ 10月上旬	～	5月上旬
播種		収穫

【播種量】 8kg/10a

【元肥】 牛糞堆肥：2,500kg、窒素8kg、リン酸10kg、カリ8kg（土壌分析値や堆肥成分によって調整）

【飼料成分】 出穂期のライムギは、オーチャードグラス1番草の出穂期や開花期に近い飼料成分です（表3）。

表3 ライムギサイレーズの飼料成分（%/乾物）

		乾物	CP	NDFom	TDN	Ca	P	Mg	K
ライムギサイレーズ	出穂期	29.7	13.5	66.8	56.0	0.67	0.42	0.19	4.46
オーチャードグラス1番草サイレーズ	出穂期	26.8	13.8	62.3	64.5	0.39	0.26	0.14	1.85
	開花期	23.9	11.7	65.7	56.4				

日本標準飼料成分表 2009年

4 大家畜

(1) 牛舎内の環境

牛舎環境面の暑熱対策を継続します（農作物技術情報第2-5号、および高温対策特別号を参照）。
 ほ乳子牛の適温域は13～25℃です。日中に牛舎が高温の場合、小型扇風機を使いますが、風を牛体に直接当て続けると過度に体温が奪われるので、首振りにする、一定時間の送風にとどめる、風の当たらない場所にも子牛が移動できるようにするなどの工夫をします。夜間は換気に留意しつつ、牛舎の窓やカーテンの開閉を調整して牛体に風が直接当たらないようにします。

(2) 飼養管理

ア 飲水量の確保と、水槽の掃除をこまめに行い、清潔な水をいつでも飲める状態に保ちます。
 イ 良質粗飼料（消化の良い牧草やトモロコシサイレーズ）の給与を継続します。
 ウ 夜間など、気温の低下に伴い飼料摂取量が増加します。ルーメンフィルスコアと残飼を確認し、給餌のタイミングと給餌量を調整します。なお、暑熱により長期間採食量が少なかった牛は、ルーメン内の発酵酸の吸収能力が低下している可能性があるため、採食量増加に伴うアシドーシスに注意します。食い込みが増え、軟便や糞中の未消化物・粘膜が見える場合は、粗飼料の給与割合を多

めにして様子を見ます。糞便の状態が落ち着いてきたら、徐々に配合飼料の給与割合を増やし、栄養を充足させます。

エ 起立時間が増加した、あるいは飼料の選び食いや固め食が多かった牛では、蹄真皮の圧迫や炎症による蹄病が発生しやすくなります。起立した姿勢、歩行時の状態をよく観察し、問題ある牛は早めに獣医師や削蹄師に処置を依頼します。

オ 暑熱時に分娩を迎えた牛は、分娩と暑熱両方のストレスを受け体調を崩しやすいので、いつもより意識して観察し、異常がある場合はすぐに対処します。泌乳最盛期に向けて、良質粗飼料の優先給与、粗濃比に注意しつつエネルギーを充足する、ビタミン剤等の給与量を少し増やすなどの栄養管理を徹底します。また、子宮の回復が通常よりも遅れると考えられるので、分娩後30日頃に子宮の回復、卵巣の動きをチェックして初回授精が遅れないようにします。

次号は9月25日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。	
熱中症防止	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。 ■ 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。 ■ 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。
農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。	